

事務事業評価表(既存事業)

コード 5-1-5	事務事業名 水質監視事業	所管部課 環境防災部環境保全課
--------------	-----------------	--------------------

事務事業の概要	事務事業の目的 公共水域である石神井川、白子川及び河川に流入する工場廃水、並びに井戸水の水質測定を実施することで、汚濁状況等を把握し、今後の環境保全対策の基礎資料とすることにより、工場の公害防止、河川・地下水の水質の改善を図る。	総合計画上の位置づけ (政策)環境にやさしいまちづくり (施策)公害対策の推進(環2-3) (主要施策)水質・騒音・大気等環境調査の実施
	実施内容、実施方法 河川(月1回5箇所、うち2箇所は年2回)、工場廃水(年4回1箇所)及び井戸水(年1回39箇所)の水質を分析し、その結果を報告書にまとめ推移を把握する。工場廃水については、調査結果が排水基準を超過した場合、基準を遵守するための指導を行う。	根拠法令等 ・都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 ・西東京市環境基本条例
	事業開始時期 合併前から	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()

評価指標の設定	活動指標名 測定箇所数	活動指標の考え方(定義) 45箇所(河川5箇所、井戸水39箇所、工場廃水1箇所)
	調査延べ回数	延べ83回(河川:3箇所×12回+2箇所×2回、井戸水:39箇所×1回、工場廃水:1箇所×4回)
	成果指標名 河川・地下水の調査達成率	成果指標の考え方(定義) 調査が確実に実施できた箇所数/調査予定箇所数
	工場の排水基準の遵守率	排水基準値をクリアしている回数/調査回数

		単位	14年度	15年度	16年度	17年度
事務事業データ	事業費(A)		2,501	2,861	2,577	2,624
	国庫支出金	千円				
	都支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		2,501	2,861	2,577	2,624
	所要人員(B)	人	0.18	0.18	0.18	0.18
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	1,484	1,489	1,499	1,499
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	3,985	4,350	4,076	4,123
	単位当たりコスト (E)=(D)/(調査延べ回数)	千円	50	54	47	
歳入	千円					
活動指標	目標値	箇所			45	45
	実績値	箇所	41	44	38	
活動指標	目標値	回			83	83
	実績値	回	80	81	87	
成果指標	目標値	%			100	100
	実績値	%	91	98	84	
成果指標	目標値	%			100	100
	実績値	%	100	100	100	

事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	
	国・都・他市・民間等における類似事業	国土交通省、東京都、各区市でも実施している。また、石神井川は石神井川流域協議会(江戸川区、墨田区、練馬区、小平市、西東京市)で広域的に検討している。
	運営上の制約条件・外部要因等	主に、他市との境界となる下流を測定場所に選んでいる。検査項目は、都の環境基準をもとに健康項目、生活環境項目等を選定している。

コード 5-1-5	事務事業名 水質監視事業	所管部課 環境防災部環境保全課
--------------	-----------------	--------------------

項目	評価結果	判断理由、説明等
事業所管部評価	実績 <input type="checkbox"/> 極めて良好 <input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 極めて不十分	河川：延べ38回実施(白子川2回は下水道工事のため検査不可)。基準適合回数...石神井川区市境12/12、旧市境4/12、白子川区市境3/12、新川0/2 工場：延べ4回実施。基準適合回数...4/4 井戸水：延べ45回実施(基本調査:39箇所のうち33箇所を実施+特別調査12箇所)。基準適合回数...34/45
	必要性 <input type="checkbox"/> 増大 <input checked="" type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 減少、一部なし <input type="checkbox"/> かなり減少	河川：年々好転していた石神井川の中で、境橋付近の水量の低下とともに水質が急速に低下している。引き続き、調査監視の必要がある。 工場：公害防止の立場から、引き続き監視が必要である。 井戸水：汚染箇所が分散しているため、汚染原因の究明と全体把握のため、引き続き調査・監視が必要である。
	効率性 <input type="checkbox"/> 大きく改善 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	：分析業務委託による効率化とともに、電子データによる報告書を添付させることにより、データの集計、蓄積、解析の効率化を図っている。 ：分析業務委託の中に、解析業務を加えるとともに、電子データによる報告書を添付させることにより、データの集計、蓄積、解析の効率化を図っている。
	公平性 <input type="checkbox"/> より充実 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	契約時の指名競争入札により、業者選定の公平性を確保している。
	総合評価 <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	全体を通し、概ね目標を達していると思われる。 しかしながら、の河川調査に際し、「必要性」の項に示すとおり、適正な執行と効果が期待できる調査地点を選定する必要がある。 の井戸水調査に関しても、全体像の把握のため、継続実施していく。

17年度における改善点	電子媒体による報告データを蓄積データに取り込むことにより、各基準に適合するか否かを直ちに判定するマクロを構築した。 今後の検討課題として、測定点の見直しが必要である。河川の場合、白子川は水洗化が100%達成できない今、雑排水の為どぶ化しており、また、新川の測定点は通常乾燥状態である。井戸水調査についても、良好な井戸水は調査から外し、新たな定点を選定する必要がある。
-------------	--

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止
--------	--

<p>評価の視点</p> <p>実績：十分な成果をあげているか。必要以上のサービスにより、経費が過大となっていないか。など</p> <p>必要性：国・都・民間での実施状況に鑑み、市が実施すべき事業といえるか。社会経済状況の変化を踏まえて実施しているか。廃止した場合に大きなデメリットは生じるか。など</p> <p>効率性：限られた財源を有効に活用しているか。現在の実施方法が最も効率的な方法といえるか。など</p> <p>公平性：サービス対象に問題はないか。利用者の利便性に配慮しているか。受益者負担の水準は妥当か。など</p> <p>総合評価：各項目の評価及び類似団体等とのサービス水準の比較を踏まえた、今後の事業のあり方・方向性。</p> <p>拡充：ニーズの増大に対応して、事業を更に強化する必要があるもの。</p> <p>継続実施：現状水準で事業を継続していくもの。給付対象者の自然増減に伴いコストが増減する場合を含む。</p> <p>改善・見直し：現在の仕組みを前提としつつ、実施方法の見直しなどにより改善を図るべきもの。</p> <p>抜本的見直し：事業の委託化や一部廃止など、事業の仕組みを含めた根本的な見直しが必要なもの。</p> <p>廃止・休止：事業を休止又は廃止するもの。単年度事業など、終了が確定しているものを含む。</p>
--